

本郷第三地区

誰もが暮らしやすい本郷第三地区を実現するための、支えあい・見守りあいのプラン（第3期栄区地域福祉保健計画 本郷第三地区 地区別計画。計画期間：平成28年度～平成32年度）をご紹介します。



本郷第三地区のプロフィール

歴史と自然に彩られた美しく住みよい街です。徒歩やバスにより、本郷台、港南台の2駅を利用する方が多く、鍛冶ヶ谷町内会、港南台プリンスハイツ自治会、本郷富士見ヶ丘自治会、元大橋町内会、若竹町内会、若竹山手町会、中野町内会、ラーバン港南台自治会、ローレルスクエア港南台自治会の9自治会・町内会で構成される地域です。

その昔、いざ鎌倉と武士（ものふ）が馳せ参じた鎌倉街道は、近代的な4車線完全舗装道路として整備され、幹線道路沿いや駅徒歩圏の地域では、マンション開発に伴い子育て世帯が増加しています。

街道の東の「本郷ふじやま公園」には、横浜市が誇る文化財である「古民家」があり、季節行事や手作り体験など、世代を問わず市民が交流する場として親しまれています。

公園の東側には、昭和30～40年代に開発された戸建て住宅地があり、栄区の平均に近い形で、高齢化が進んでいます。

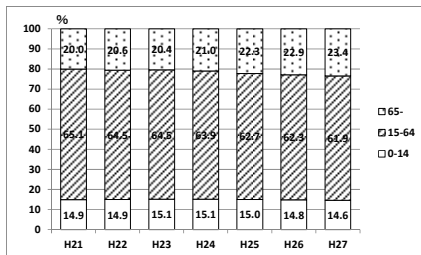


地区の特徴から考えること

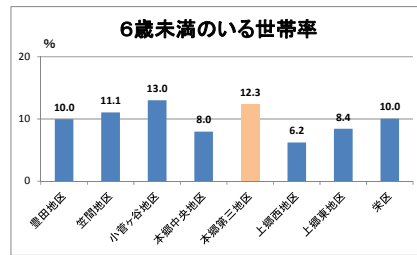
- 子育て世代が多く、安心して遊べるこどもの遊び場の充実が求められています。
- 高齢者に対する福祉活動は活発化してきていますが、場所の確保や担い手の充実を図る必要があります。
- 災害時要援護者の把握は、地区全体で進んでいますが、今後、向こう三軒両隣との関係づくりを深めていく必要があります。
- 住民の防災訓練などへの参加意欲が高く、「防災面の取組」をきっかけに、地域の住民を、支え合い（共助）の取組に巻き込んでいく必要があります。

数字から見た本郷第三地区

- 平成21年から平成27年までの間で、年少人口（15歳未満）の割合がほぼ横ばいである一方、老年人口（65歳以上）の割合は、少しずつ増加してきています。
- 栄区の中では、幼児のいる世帯が多い地区で、高齢者のみの世帯は比較的少ない傾向があります。



年齢構成の推移



（平成22年度国勢調査結果から）

地区別計画策定までの経過

●地区別懇談会「本三のみらいを語ろう～希望にあふれる町づくり、みんなで創る明るい未来～」を開催

- 平成26年11月15日（土）
- 主催：本郷第三地区支えあいネットワーク
- 参加者：地区の住民 約80名
- 出された意見：約290件
- 8つのグループに分かれて、「こんな町になったらいいな」「こんなことに困っている」「こんな未来にしたい」などの意見を出し合いました。

- 出席者からは、
- ・高齢者が気軽に集まることができる場所がほしい。
 - ・子どもたちがのびのびと遊べる場所がほしい。
 - ・世代間の交流ができる場があるといい。
 - ・買物が便利な町になるといい。
 - ・一人でも安心して住み続けられる町になるといい。
 - ・災害のときには近所で助け合えるようにしておきたい。
 - ・誰もが安心して暮らせる町、便利に暮らせるまちになってほしい。
- など、たくさんの意見や提案が出されました。

●地区別懇談会で出された意見の中から、本郷第三地区で「取り組みたい課題」を検討

- 平成26年12月～平成27年2月
- 検討の場：本郷第三地区支えあいネットワーク 5分科会及び幹事会
- 5つの分科会の検討の結果、抽出された約70件の意見について、更に幹事会で話し合い、12の課題のグループを、本郷第三地区で「取り組みたい課題案」としました。

●「取り組みたい課題案」を本郷第三地区支えあいネットワーク全体会で共有

- 平成27年3月7日（土）
- 出席者：自治会・町内会の会長など、ネットワークの構成員 約80名

●「取り組みたい課題」について、取組内容・取組主体を検討

- 平成27年3月～
- 検討の場：本郷第三地区支えあいネットワーク 5分科会及び幹事会

●「取り組みたい課題」について、自治会・町内会の取組状況を調査・共有

- 平成27年6月～平成27年9月
- 「取り組みたい課題」について、各自治会・町内会が既に取り組んでいること、今後の方向性等を調査。取りまとめた結果を地区内で共有

●第3期推進に向けた連携強化の在り方について、連合町内会、自治会・町内会、地区社協が意見交換を実施

- 平成27年10月

●第3期計画素案を本郷第三地区支えあいネットワーク全体会で共有

- 平成28年3月5日（土）
- 出席者：自治会・町内会の会長など、ネットワークの構成員 約90名

本郷第三地区はこんな地域です！



本郷第三地区の目標 顔の見えるまちづくり

テーマ	小テーマ（課題）	将来像（目標）	取組内容	取組体制	セーフコミュニティ
【重点取組】	日頃からの交流を通して、お互いを見守り、支え合える地域にしよう	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の行事や活動を通して世代間交流が図られており、お互いを見守りや、ちょっとした変化の早期発見につながっている。 ○高齢者世代が、地域の活性化に大きく関わっている。 ○地域への愛着を持つ子どもが増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既存のサロンで、子どもも楽しめるような内容を企画・実施 ○各世代が継続的にやっている活動や行事が、世代間交流になるように工夫（シニアクラブ主催のラジオ体操に子どもが参加等） ○自治会・町内会の行事や活動を通して世代間交流（お祭り、清掃活動、防災訓練等） ○自治会・町内会が、学校、シニアクラブ等の協力を得て、子どもが参加しやすいイベントを企画（ハロウィンで子どもがシニア宅を訪問等） ○スポーツなど、健康づくり活動を通じた世代間交流（土日にグラウンドゴルフを開催等） 	自治会・町内会、民生委員・児童委員、シニアクラブ（友愛活動員）、保健活動推進員、子ども会、スポーツ推進委員、青少年指導員、小中学校、支えあいネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> こども安全 スポーツ・余暇安全
	高齢者が気軽に集えて、健康づくりにつながる場所を充実させよう	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが、本郷第三地区内の地理的条件の良いサロンを選んで参加できていて、困ったときに相談できる人がいる。 ○健康づくりの取組が、人と人のつながり、支え合う関係をつくり、関わる人全体が、良好な健康状態を保っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既存のサロンが、自治会・町内会等の地区を越えて、参加者を受入れ ○初参加の方や引きこもりがちの方も安心して出掛けることができるように、誘い方を工夫（身近な人からの声かけ等） ○身近なサロン等の場で、認知症予防などの健康づくりの取組を企画・実施 ○男性の参加を促すために、開催方法や内容を工夫（シニアクラブと町内会が行事を共催等） ○限られた公的施設を有効活用しながら、ニーズが一層高くなる交流の場（拠点）の確保に向けて、民間事業者、空き店舗・空き家等の活用も視野に入れた方策の検討（夜間営業の店舗を日中借りて交流の場を設置等） 	自治会・町内会、民生委員・児童委員、シニアクラブ（友愛活動員）、保健活動推進員、食生活等改善推進員、消費生活推進員、ボランティア、支えあいネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全 児童虐待予防 高齢者安全
	子育て世代が安心して暮らせる地域（まち）にしよう	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て世帯と、近隣住民等との顔の見える関係ができていて、困ったときに、周囲に相談や助けを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て世帯と地域とのつながりづくりを意図した取組の実施 	自治会・町内会、民生委員・児童委員、主任児童委員、支えあいネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 災害安全 自殺予防
	子どもの帰宅時間を共有できるような地域（まち）にしよう	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校時などの子どもたちが、顔見知りの大人によって見守られている。 ○子どもの見守り活動が、高齢者の健康づくりにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、学援隊、シニアクラブの協力により通学路の見守り活動 ○夕方、大人が子どもたちに、帰宅を促すような声かけができる地域づくり（町内会スピーカーで帰宅時間を知らせる音楽を流す等） ○地域に顔見知りの大人が増えるような「あいさつ運動」等の実施 	自治会・町内会、シニアクラブ（友愛活動員）、防犯指導員、よこはま学援隊、交通安全母の会、小中学校、支えあいネットワーク	防犯
	地域の行事や防災訓練に、もっと子どもを参加させよう	<ul style="list-style-type: none"> ○地域活動に参加した子どもが、将来の担い手になり、また、子どもの参加を通して、子育て世帯と地域との関わりが深まっている。 ○地域への愛着を持つ子どもが増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の行事や防災訓練等を、子どもに魅力あるものにしたり、家族ぐるみで楽しんで参加してもらえるような工夫や、子どもに役割を持たせる工夫 ○学校などを通して、子どもたちに、ボランティアとしての参加・協力を依頼 	自治会・町内会、防犯指導員、小中学校、支えあいネットワーク	
いざというときに備えて、お互いの特性を理解し、顔の見える関係を深めよう	災害時要援護者と地域との顔の見える関係づくりを進めよう	<ul style="list-style-type: none"> ○要援護者と支援者や向こう三軒両隣との顔の見える関係ができていて、日頃の見守りにもつながっている。 ○個人情報の保護と活用が正しく理解されており、適切な情報共有が進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃から顔の見える関係を築くため、自治会・町内会やシニアクラブが協力して、交流の場を企画 ○要援護者が参加する安否確認、避難支援等の訓練を、日頃の大切な交流の機会と捉えて実施 ○個人情報の保護と活用を正しく理解するために、研修会等の実施 ○特別な事情のある方については、自治会・町内会の当番を、班の中で代行するなど、日頃からの向こう三軒両隣による支え合いを推進 	自治会・町内会、民生委員・児童委員、シニアクラブ（友愛活動員）、防犯指導員、家庭防災の会、消防団、環境事業推進委員、支えあいネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者安全 災害安全 自殺予防
	認知症の方も安心して暮らせる地域（まち）にしよう	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症があっても、周囲がやさしく見守り、声かけできるような地域になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なサロン等の場で、認知症予防などの健康づくりの取組を企画・実施 ○包括支援センターと協力し、認知症の方を地域で見守るために何ができるのかを検討 ○認知症サポーター養成講座の開催 ○認知症の人や家族、地域住民など、誰もが気軽に立ち寄ることができ、自ら活動したり、家族同士の交流や相談ができ、認知症の理解につながるような集いの場の検討 	自治会・町内会、民生委員・児童委員、シニアクラブ（友愛活動員）、保健活動推進員、認知症サポーター、支えあいネットワーク	防犯
	障害がある方への理解を広げよう	<ul style="list-style-type: none"> ○障害への理解が進み、障害の有無にかかわらず、お互いを支え合う相互関係ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ケアプラザや介護施設から話を聞く勉強会 ○障害や病気の有無に関わらず、健康づくり活動や地域活動に参加することにより、お互いを当たり前存在として、支え、助け合う地域づくり（地域のサロンで、障害がある方がスタッフとしてボランティア等） 	自治会・町内会、民生委員・児童委員、ボランティア、支えあいネットワーク	
地域活動の理解者を増やし、活動参加のきっかけをつくらう	みんなが何かボランティアに参加するような地域（まち）にしたい	<ul style="list-style-type: none"> ○趣味などの活動が、地域活動を始めるきっかけとなっていて、地域資源の充実につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○趣味の活動が、ボランティア活動のきっかけになるような講座やイベントの開催 ○定年退職後のシニア世代に参加を促すような呼び掛けの工夫 ○地域の最も基礎的な共助組織である自治会・町内会に加入することの大切さを発信 	支えあいネットワーク	
	情報を行き渡らせたい	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい情報が、情報を必要としている人に、確実に届いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報紙等により地域の活動・行事を紹介し、地域活動参加のきっかけを提供。併せて、より効果的な伝達手段の検討 ○地域で活動している福祉保健団体等の役立つ情報をまとめたパンフレットの作成 ○ホームページ、SNS等の情報ツールを活用したタイムリーな情報発信 ○情報ツールを利用できない方や、地域活動に興味がない方にも届くような情報発信の工夫 ○全ての住民に周知したい内容と、情報の受け手を意識すべき内容と区別して、情報提供する工夫 	自治会・町内会、支えあいネットワーク	